

Shirane

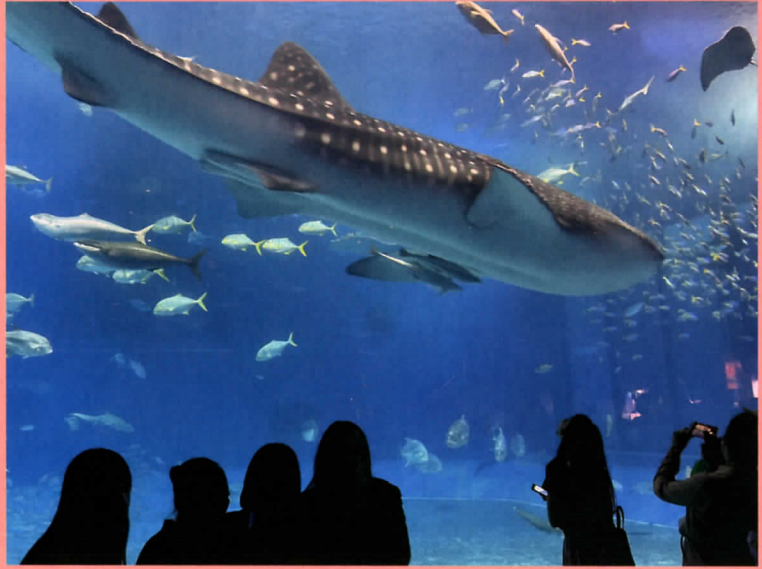
挑戦 Spirit

一人一人の進路実現に向けた、きめ細かい指導。
部活動や奉仕活動への参加を通じて、豊かな人間性を育成。
地域社会に信頼される学校づくり。
それが白根高校のスピリットです。

Vol. **52**
第52号
Feb. 2023
白根高校通信

CONTENTS

- P.02 修学旅行
- P.03 合格体験記／進路決定状況
- P.04 若林 尽さん (写真部)
- P.04 1学年「フィールド・デイ」



学校、友達、先生、家族
当たり前が目常が、本当は
かけがえのない存在だったこと
思い出すことができたのは、非日常の
4日間のおかげでした——



沖縄に刻まれた、忘れてはいけぬ歴史
受け継がれてきた記憶
その歴史を学び、聞き、触れて、
その記憶をまた未来へと運ぶ



修学旅行
沖縄県
 2022.11.6.Sun.
 ~11.9.Wed.



今年のご協力により3年ぶりに沖縄へ行くことができました。

一日目は、私たちは飛行機で沖縄へ行き、その後美ら海水族館を訪れました。ジンベエザメなど多くの海の生物たちを見学し、とても楽しい時間を過ごすことができました。

二日目はひめゆりの塔と平和祈念資料館へ行きました。この資料館には、沖縄戦の詳細な記録やひめゆり学徒隊の方の証言が文字資料として展示されています。そこには何十人も

2年4組 志村 智輝



新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中ではありましたが、私たちは修学旅行に行くことができました。一昨年は県内、昨年は福島・栃木への修学旅行でした。今年も沖縄へ行くか危ぶまれる状況でしたが、先生方や保護者の方々の協力と努力のお陰で沖縄に行けることになりました。

一日目は羽田空港から沖縄へ行き、ジンベエザメなどがいる美ら海水族館へ行きました。二日目は平和学習の日で、平和祈念公園や平和の礎、ひめゆりの塔、糸数壕、米軍基地の近くの

道駅など、沖縄戦の跡や今の沖縄について学びました。三日目はタクシー班研修で、私たちの班は沖縄県内の自然や文化について学ぶことが出来ました。四日目は首里城へ行き、那覇空港から山梨へ帰りました。

修学旅行で一番印象に残ったのは、二日目の平和祈念公園で聞いた沖縄戦体験者の方のお話です。修学旅行に行くにあたって、第二次世界大戦や沖縄戦については学習しました。しかし沖縄戦を体験された方のお話は、実際に爆弾が落ちてきた時に岩の裏に隠れてやり過ごしたお話やガマにいた時に赤ちゃんとい



言が記録されており、そのどれもが当時の凄惨な様子を生き々しく語るものでした。私たちと同年代の少女たちがここで亡くなったといったのだということを実感させられました。

三日目はタクシー班研修でした。古宇利島という景色のとても美しい島や、アプチャラガマと呼ばれる自然洞窟など、沖縄各地を巡りました。タクシー班では地元の方の目線で多くのことを教えてもらい、観光地を見ていくだけではわからないことを学ぶことができました。

最終日の四日目は、首里城へ行きました。首里城は数年前の

緒にいたら外に出てくれと言われた話など、より現実味を帯びたお話でした。戦争が人を人ならざるものにさせるものだとも言われていました。あらためて、戦争は二度と起こしてはいけないものだということを学ぶことが出来ました。

今回修学旅行に行つて実際に見てきたこと、教えていただいたことを忘れることなく、これからの学校生活や進路に向けて活かしていきたいです。

火災で正殿が消失してしまい、コンテナに囲まれた様子しか見ることができず残念でした。

今回の修学旅行で私は多くのことを学び、たくさんの楽しい思い出を残すことができました。

今年の修学旅行はコロナ禍での沖縄ということもあり、先生方や旅行会社の方など多くの人の努力があり実施できたものでした。そのことに感謝し、この貴重な四日間得たものをこれからは活かせるようにしたいと思います。



2022年11月07日



辻 大成

「プロサッカー選手」「教員」になるという大きな目標のもと、学芸大学で学ぶことができた。フアシリテーションの技法やデータを活用した先導的な教育学は、どちらもトップレベルで活躍する術を磨くのに最適であると考え志望しました。

なぜ合格したのだろうか？と振り返ると、答えは1つ。目標を口に出し続けたからです。「学芸大学に入る」というフレーズを常に口にしてきたからだと思います。歳を重ねると大きな目標や夢は語り辛いです。正直、自分も周囲を気にしてしまふことがあります。しかし、口に出すことで自分の中で覚悟が生まれ、どうするべきなのかと模索し、行動に移すことができました。この作業を継

合格体験記

帝京学園短期大学

磯野 綾音

昔から、子どもに関わる職に就くという目標を抱きつづけていました。その目標を実現するための知識・技術を得られる大学を見つけ志望校として確定したのは、三年生の六月でした。

目標が明確に決まってきたら、評定を意識したり校外の小論文講座を受講したりと、自分なりに対策を考え行動しました。また、先生方の丁寧な指導のもとで、自身が一番不安を抱えていた面接にも少しずつ自信がついていきました。毎日遅くまで指導して下さった先生方には、本当に感謝しかありません。試験当日は緊張もありましたが、保育者を希望している理由をはじめ、自分の気持ちすべて伝えることができた。合格を手にするのができた。

続けたことが合格に結びつきました。また、受験に「本気」で向き合うことで支援して下さる方と出会い、その声援は本来の何十倍も力をもたらすと学びました。改めて、受験を経験できて良かったと思っています。

最後になりますが、先生方や仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを胸に、冒頭の目標を口に出し続け、実現させます。

山梨県立大学 人間福祉学部

人間形成学科

坂本 美海

私は小学生の頃から保育士になりたいという気持ちがあり、高校一年生の時にはすでに志望校を決めていました。

私の受験方法は小論文とグループ討論でした。特に力を入れたことは、

多様な進路希望に応じたきめ細やかな指導が進路実現を支えています

本年度合格者数

4年制大学 54名

短期大学 7名

専門学校 49名

就職 8名

は、日々の努力の積み重ねはもちろん、試験まで支えてくださり、協力して下さった方々のおかげです。これを忘れず、精進していきたいです。これから受験を控えている皆さんには、受験は、自分だけの力ではないことを知ってほしいです。保育者を目指す一人として、子どもたちに寄り添い続け、社会に貢献できる人材になりたいと思います。

共立高等看護学院

井上 泰生

私は看護師の母の影響で、幼いころから看護師になりたいという夢を持っていました。そのため、一年生の頃から指定校推薦を視野に入れ、勉強と部活動の両立に力を入れたり、県内の看護学校を調べたり、インターシップで看護の体験をしたりと、自分の夢に対する意思を固めてきま

SDGsや育児課題についての知識の蓄積です。高校生活では部活動と勉強の両立を心掛けたが、子どもと触れ合うことができる活動に積極的に参加してきました。気持ちを吐き出すことが苦手な私は、不安や悩みが膨らみ苦しい時期が何度もありました。そんな私を支えてくれたのは母や友人、そして私のことを常に気にかけてくださり、細かくわかりやすい指導をして下さった先生方でした。その恩に報いるように、無事に合格の報告ができた際には、諦めずに進んできてよかったと感じました。本当に感謝しています。



これから新しいスタートを切ることになり。大変なことも多いと思いますが、幅広い知識を身につけ多様な経験を積み重ねながら、夢の実現に向けて日々努力します。

した。受験科目には現代文の試験と面接がありました。私は両方自信がなく、試験日が部活動の引退試合の前日だったこともあり、勉強時間が満足にたれず精神的に不安定な状態が続くこともありました。しかし、担当の先生方のご指導により徐々に自信が湧き、試験当日は万全の状態での臨むことができました。



合格できたのは先生方や友人、家族の支えがあったからだと、受験を通して改めて実感することができました。この感謝の気持ちを忘れず、命も心も守れる立派な看護師になれるように、日々精進していきたいです。

神奈川大学 経済学部 経済学科
現代経済専攻

穴水 隼磨

私は政治経済が好きで、日本経済が三十年間成長していないことに疑問を持つようになり。志望校を決めたのは二年生の三月でした。一年生の頃は専門学校への進学を希望していましたが、高校生活を通して視野が広がり、進路学習を進めていくうちに大学進学を目指すようになりました。大学進学を決めてからは、定期試験に力を入れ、課外活動等にも積極的に取り組むようになりました。

受験では志望理由書の提出と面接がありました。受験対策として、新聞や本をたくさん読み文章力を養い、書く練習を繰り返しました。面接についても、先生方に毎日のように練習をしていただきました。そうして

と余裕をもって臨むことができた。先生方のご指導や練習を手伝ってくれた友人、家族の応援があったからこそ合格することができました。そのことへの感謝を忘れず、この先もやりたいことに挑み続けていきたいと思えます。



練習を積み重ねていくことで自信を持てるようになりました。合格することができたのは、先生方のご指導や家族、友人の支えがあったからです。今後も感謝の気持ちを忘れず、サポートしてくださった方々の期待を裏切らないように、目標に向かって日々努力し続けていきます。

写真部の2年生 若林 尽さんが、第43回山梨県高等学校芸術文化祭写真部門展において奨励賞を受賞、2月の関東地区高等学校写真展山梨大会に出品されました。



「親愛」

「私の写真活動」

2年4組 若林 尽

私が所属している写真部は、春季・秋季・冬季の審査会、及び芸術文化祭で入賞することを目標に活動しています。個人活動ではありませんが、部員全員が真摯に取り組み、入賞するために構図や光の加減などを考え、日々写真の技術を高めています。また、三月には文化部発表会といった行事もあり、一年を通して活発に活動しています。

そのような中、芸術文化祭において奨励賞をいただき、関東大会に出品することができました。私の撮った「親愛」は、二人の男女が談笑している場面を切り取った作品です。あの場所だけ二人の世界だと感じ、写真を撮りました。その結果、日常の風景ではあるけれど、どこか非日常を感じる、そのような写真になったと思います。以前からそうだった写真が撮りたいと思っていたので、とても満足のいく作品にすることができたと同時に、自信に繋がりました。

今後写真に対し全力で取り組んでいきたいです。

11月8日(火)、コミュニティー・スクールにおいて「地域を学ぶ」活動の一環として、1学年が野外活動「フィールド・デイ」を行いました。南アルプスユネスコエコパーク内にある伊奈ヶ湖において野外活動を行い、また南アルプスIC近くの遺跡発掘調査現場で、発掘体験をさせていただきました。

エコパ伊奈ヶ湖野外実習について

この野外実習で一番心に残っているのは、紅葉と湖と、そこで泳ぐ鯉を見ることができた景色です。森の中をひたすら歩き、そして見たあの景色は絶景でした。エコパは「自然と人間社会の共生」が目的で、自然・人・生きものすべてのバランスが大切だそうです。このバランス(調和)を保ちながら共に生きていく方法について、これから考えていきたいと感じました。(1年2組 櫻田 愛美)

今回の体験活動を通して、自分たちが住んでいる南アルプスがエコパークに指定されており、人と自然が共存している大切な地域であると知ることができました。私は、「南アルプスには自然しかない」と思っていたのですが、その自然こそが守っていくべき大切なものなのだとあらためて感じるすることができました。(1年4組 戸田 蒼人)



遺跡発掘体験について

遺跡は国民共通の財産であり、記録に残す必要があること、その発掘調査には多くの人々の力と時間が必要であることを知りました。土の中には石が非常に多く、掘るのには力が必要で苦労しました。住居の跡や土の中から発掘された土器を見ることが、発掘調査ができることはめったにないことなので、体験させてもらった感謝を忘れないようにしたいです。(1年1組 保坂 葉月)

実際に自分たちで遺跡発掘をしたことで、昔の生活場所や使っていた物などを知ることができました。今回掘り出した土器は10世紀のものでしたが、意外と浅い部分にたくさんあり、地表から遠くないところに昔の土器が埋まっていることを実感できました。そして、この広い土地の調査はたくさんの人たちの協力があって成り立っていることを知ることができました。(1年3組 入倉 友)

Shirane Spirit 挑戦 頑張る白根スピリット

白根高校通信 第52号

発行◎山梨県立白根高等学校 〒400-0211 山梨県南アルプス市上今諏訪1180 TEL.055-284-3031 FAX.055-284-3033

発行日◎令和5年2月28日 編集◎山梨県立白根高等学校 教務部

ホームページ http://www.shirane-hs.kai.ed.jp/

